

平成30年度 第2回 地域公共交通会議議事録

日時：平成31年1月22日（火） 午後1時30分～

場所：全員協議会室

（出席委員） 田代利彦、森田正志（代理：小林）、衣川勝己、
長尾尚佳（代理：中嶋、岩野）、高垣太郎（代理：上平）、森下清司、
安東完爾、西村芳通、大西裕之、木村誠治、上田昌弘（代理：西居）

（欠席委員） 中本満、嶋田淳、宮本修、北村修、田村政博

（出席事務局職員） 嶋田経営管理部長、大松経営企画課長、
吉野まちづくり係長、南村まちづくり係副主任

（議 事）

議案第3号 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

議案第4号 平成31年度事業計画（案）の承認について

議案第5号 平成31年度予算（案）の承認について

1. 開会（事務局）

ただいまより、平成30年度第2回有田市地域公共交通会議を開催いたします。本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

本日は過半数以上の委員さんに出席いただいておりますので、本会議設置要綱第5条第2項により本会が成立いたしましたことをご報告いたします。

それでは、まず始めに田代会長よりご挨拶よろしくお願いいたします。

2. 会長挨拶

皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、有田市地域公共交通会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

皆様におかれましては新たな思いで新年をスタートされていることと存じますが、平素より市政運営にご理解、ご協力を賜っておりますこと、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、有田市デマンドバスの運行につきましては、委員の皆様方にご協議ご検討いただきまして、地域の公共交通として重要な役割を果たしているところです。

デマンドバスにつきましては、平成23年度から「地域公共交通確保維持改善事業」として運行を実施しているところですが、本日はこの国庫補助事業における自己評価につきまして、ご協議をお願いしたい次第でございます。

また、平成31年度事業計画（案）及び予算（案）も議題とさせていただきます。本市でも予算編成の大詰めを迎えており、皆様のご意見を市の政策にも反映していきたいと思っておりますので、今後の当会議の運営や地域公共交通機関のあり方などについて、活発にご協議していただくようお願い申し上げます。開会のご挨拶とさせていただきます。

(事務局)

それでは、本会議設置要綱に基づき会長に議長をお願いし、議事に移らせていただきます。田代議長よろしくお願いたします。

3. 議事

それでは、議事に移らせていただきます。

本日の議事は、議案3件でございます。それでは、議案第3号「地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について」を事務局より説明願います。

(事務局説明)

議案第3号「地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について」ですが、まず始めに「地域公共交通確保維持改善事業」についてご説明いたします。

この事業は、多様な関係者の連携により、地域公共交通の確保・維持を図るとともに、地域公共交通の改善に向けた取組を支援いただけるものです。有田市デマンドバスにつきましても、毎年、生活交通確保維持改善計画に基づきまして、運行に係る経費を対象に一定の補助を継続的に行っていただいております。

平成31年度事業につきましても、前回の会議でご承認いただきました生活交通確保維持改善計画を平成30年9月28日付けで認定いただいております。また、毎年度の補助事業終了後には、実施した事業の内容を振り返って、目標の達成状況などを評価・分析し、次年度の取組につなげていかなければならないとされています。まず、一次評価ということで、協議会自らが評価を行います。その評価結果を国に報告し、二次評価を受けるという流れになっています。事業年度は通常一般的な年度とは異なり、10月から9月になりますので、今回評価を行う平成30年度事業は、平成29年10月から平成30年9月までの分となります。以上の内容をうけて議案第3号の説明に移ります。

資料1頁「地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）」をご覧ください。まず、1頁目ですが、前回の評価結果の反映状況ということで表の③をご覧ください。前回の評価結果では、一部路線で乗車人数が減少し、目標を達成することができなかつたため、増減の要因を分析、利用促進をおこなうとしておりました。増減要因の分析については、市民アンケートをおこない、前回会議でご報告させていただいたように公共交通機関の利用状況や通院・買い物等の行先などを分析しました。利用促進では、例年通り市内各所および街頭啓発において時刻表を配布したほか、新たな試みとして地区ごとの簡易な時刻表を作成し、民生委員の方々のご協力のもと高齢世帯に配布したことを記載しています。また、④の事業実施の適切性については、計画どおり適切に実施されたと考えておりますので、評価をAとしております。⑤の目標・効果達成状況ですが、計画に記載しました17,186人という利用者数の目標に対し、15,614人とわずかに目標達成に至らなかつたため、評価をBとしています。

利用人員については、資料の10頁をご覧ください。平成29年10月から平成30年9月の乗車人数を載せております。また、下の方には、乗車人数の対前年度比率を載せております。近年、Aコースについては前年度水準を維持、Bコースについては減少傾向でしたが、H30年度では、Bコースの減少が止まった一方、Aコースは減少する結果となりました。

減少したAコースについては、資料の11頁に停留所別の乗車人数をまとめてありま

す。減少幅が最も大きかったのは、オークワ前、市立病院前ですが、これらの停留所は目的地としてコース全体の減少の影響が大きいと考えられますので、それ以外では糸我・宮原方面での減少が目立ちます。

1 頁にお戻りください。これを踏まえて⑥の今後の改善点としましては、アンケート結果等を踏まえて路線を見直すなど、利便性向上を図るとともに、より効果的な利用促進を検討するとしております。

次に2 頁をお開きください。ここでは、地域の交通の目指す姿ということで、本市の公共交通機関の現状及び交通弱者である高齢者数が増加傾向であることを踏まえ、事業実施の目的と必要性を記載しております。

3 頁をお開きください。取組・評価概要のわかる資料となっております。こちらは、デマンドバス事業に限らず、有田市の公共交通全般について記載しております。ここまでの説明と重複する部分は割愛させていただきますので、お読み取りください。

まず、1. 公共交通の将来像として、有田市の概要と長期総合計画に記載された方針を記載しております。2. 達成状況の評価については、先ほどご説明しました平成30年度目標に加え、長期総合計画に記載された平成32年度目標を記載しております。

4 頁に移りまして、3. 具体的取り組み内容については、先ほど申し上げたような取り組みについて記載しております。6 頁に移りまして、4. 具体的な取組に対する評価については、デマンドバスについての評価に加え、鉄道への影響についても記載しています。

7 頁の5. 課題と対応方針については、より一層利用者の減少が進んでいることを踏まえ、先ほど申し上げたような対応方針を記載しています。8 項に移りまして、1. 第三者評価委員会の活用・対応状況については、該当はございませんでした。最後に、2. アピールポイントとして、時刻表配布、アンケート実施のほか、地域包括ケアシステムの研修会で公共交通の利用促進を呼びかけたこと、市立病院において運転免許証返納者へ回数券を配布したことを挙げております。

議案第3号の説明は以上です。

(田代議長)

前回の事業評価結果の反映状況、目標の達成状況と対応方針、これまで取り組んできたことなどについてご説明させていただきました。

本議案につきまして、何かご意見、ご質問はありませんか。

(意見、質問なし)

(田代議長)

無いようでしたら、議案第3号については、原案のとおり承認することにご異議はございませんでしょうか。

(異議なし)

ご異議がないようですので、議案第3号「地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について」は原案のとおり承認されました。

続きまして、議案第4号と議案第5号については、一括議題とさせていただきます。それでは、議案第4号「平成31年度事業計画（案）の承認について」、議案第5号「平成31年度予算（案）の承認について」を一括して、事務局より説明願います。

（事務局説明）

資料12頁をお開きください。議案第4号「平成31年度事業計画（案）」ですが、例年と同様に継続してバスの運行を行うとともに、利用促進に努めていくほか、事業評価でも記載しました路線の見直しの検討を進めたいと思います。

先ほど説明しました地域公共交通確保維持改善事業の実施については、運行に関する実施主体は運行事業者となり、ルート・ダイヤ・運賃等の検討及び周知広報等については運行事業者と地域公共交通会議が協力して実施することになります。

13頁に移りまして、議案第5号「平成31年度予算（案）」を説明いたします。

まず、歳入の部ですが、負担金として、有田市からの負担金は74,000円で前年度と同額です。諸収入の雑入として、広告料収入等で210,000円です。これは、平成29年度の決算額を参考に見込んでおります。従いまして、歳入につきましては合計284,000円となります。次に、歳出の部ですが、運営費として会議費が72,000円、事務費が2,000円でそれぞれ前年度と同額を見込み、運営費が合計74,000円となります。負担金210,000円は、先ほどの広告料収入等を負担金として運行事業者へお支払いするものです。従いまして、歳出合計は歳入と同額の284,000円となります。以上です。

（田代議長）

ただいま説明のありました、議案につきまして、何かご意見、ご質問はありませんか。

（意見、質問なし）

（田代議長）

特に無いようでしたら、議案第4号及び議案第5号については、原案のとおり承認することにご異議はございませんでしょうか？

（異議なし）

それでは、議案第4号「平成31年度事業計画（案）」、議案第5号「平成31年度予算（案）」は原案のとおり承認されました。

これで、本日の議案は全て終了いたしました。

その他について、事務局から何かありますか。

（事務局）

事務局からはございません。

(田代議長)

それでは、全体を通して、委員の皆様から何かございませんか。

(木村委員)

平成30年度の乗降客数の目標である17,186人というのは、何をもとに設定されたのでしょうか。

(事務局)

従前より、乗降客数の目標は前年度水準を下回らないこととしており、目標設定時点では平成29年度実績が確定しておりませんので、当時の前年度実績見込みとして設定いたしました。

実際のところ、平成29年度実績の見込みとして過剰であり、実際には16,545人でありましたが、これと比べても平成30年度は1,000人近く落ち込んだということになります。

(木村委員)

そうすると、平成31年度の目標は15,614人ということですか。と申しますのも、現状では、平成32年度末目標の年間17,000人に全然届かないのではないかと思います。

(事務局)

平成31年度の目標につきましては、前回の公共交通会議でお諮りした事業計画に含まれておりまして、その時点での平成30年度実績見込みであった、16,446人を目標として掲げております。

おっしゃるとおり、長期総合計画の目標とはかい離しつつある中で、利用者数を増やす取組をおこなっていきますが、長期総合計画そのものも見直し時期が迫っておりますので、その中で公共交通全体の目標を改めて検討していく必要があるかと感じております。

(森下委員)

今お話しがありました近畿様式の将来像のところですが、運輸支局さん、目標というのは必ず記載しないとイケないですか。

(衣川委員)

自己評価であるので、数字自体はこうでなければいけないということはありませんが、目標は掲げていただくようお願いしています。

(森下委員)

書かなければいけないということで、長期総合計画の目標を記載して、毎年度の目標は6月に実績を踏まえて設定しているということですね。

ちなみに、第4次有田市長期総合計画の期間はいつまでですか。

(事務局)

2020年度までです。

(田代議長)

長期総合計画の目標は必ず記載しないといけませんか。

(事務局)

先ほど衣川委員のおっしゃられたように、目標は数値で設定するよう近年求められておりまして、バスだけでなく公共交通全体についての目標となると、有田市の場合長期総合計画にしか記載がなかったため、昨年から記載させていただいているところです。

長期総合計画そのものの見直しも迫っておりますが、それを待たずして、デマンドバスの目標を実態に合わせて下方修正するという事は、簡単ではありませんが、可能性としてはあると考えています。

一方、現実に合わせて目標を下げるというだけでなく、利用促進の努力をしていかないといけないという面もありますので、双方を鑑みて目標設定をおこなっていく必要があると思います。

(田代議長)

実態として年々利用者が減少している中で、長期総合計画の年間17,000人という目標に近づけていくのは、なかなか難しいとは思いますが。

(衣川委員)

人口減少の影響を大きく受けているのだとは思いますが、その中で利用促進を図っていくためには、自治会等を介してというだけでなく、直接住民と接触していくことも必要だと思います。

(事務局)

市民アンケートの結果を見ましても、公共交通を維持してほしいという希望は非常に多いですが、実際ご自身が利用されているかという点、自動車を運転できる方は、現状必要としていないところがあります。

(衣川委員)

今は利用する必要がなくても、いつかは皆さん運転できなくなるということを理解してもらうことが大切だと思います。

(事務局)

「乗って残す」という考え方を、どれだけ浸透させられるかということですね。

(上田委員代理)

その市民アンケートは、実は私のところにも届きまして、回答させていただきました。

回答を記入していくと、「いいえ」ばかりになってしまって、申し訳ないなと思ったのですが、先ほどおっしゃられたように、自分が自家用車を運転できる以上、電車もあまり利用していないし、デマンドバスも乗る機会がないと感じました。

実際のところ、利用者に寄り添ったアンケートを取ろうと思うと、もっとご高齢の方の意見に絞ったほうがいいかと思いましたが、どうでしょうか。

(事務局)

今回のアンケートについては、利用者だけでなく、市民全体を対象として実施いたしました。今おっしゃられたように、現に利用されている方の意見についても収集していく必要はあると考えております。

昨年この会議でもお話しさせていただきましたが、単身の高齢世帯など交通弱者といわれている方への直接的なアプローチとして、各地区の民生委員さんを通じまして、地区ごとの利用例、時刻表をまとめたチラシをお配りするとともに、配布した際の反応も伺いました。

それ以外にも、利用者の方から直接市役所へご意見いただくこともありますので、そういったことも踏まえながら、来年度以降、そういったご意見を路線に反映していくような取組と進めていきたいと思っております。

(田代議長)

これまでもデマンドバスに対しては様々な意見をいただいておりますが、今回は市民全体についての調査をおこなったというところではあります。

バスの利用者は高齢者に限ったものではないですが、今後運転免許証を返納してバスを利用しないといけないという方が増えてくる中で、例えば、老人クラブの協力を得て高齢者の方がどう思っているのかを調べるなどの工夫もしていったらどうかと思っております。

(事務局)

高齢者については、そのような方に接する機会の多い介護事業者の皆さんにもご協力いただきながら、デマンドバスのことを知っていただけるような取組も進めております。

(田代議長)

高齢者の方々への周知を図っていくと同時に、そういった方のニーズがどこにあるのかということも把握していくようにお願いします。

(木村委員)

広報啓発については努力されているのだとは思いますが、役所的ではありますが、啓発用品を作成、配布するなど、少しお金をかけてもよいのではないかと思います。

(事務局)

利用促進につながるのであればどんなことでもやっていきたいと思います。

今ご意見いただいたようなことも、費用対効果を踏まえながら検討していきたいと思えます。

(田代議長)

何をすれば効果的なのか見えない中ですが、これまでどおりでは厳しい状況なので、皆様のご意見も踏まえて、できることはやっていくようお願いしたいと思います。

この会議の場以外でも、何かいいアイデアがあれば、いつでも事務局までご助言いただきますようお願いいたします。

よく聞くご意見では、停留所が遠いので、もう少し家の近くまで来てくれないかと伺います。停留所以外で乗降いただくことは不可能ですが、そのようなお声も路線の見直しに反映していく部分もあると思いますので、色んな意見を収集してください。

他にご意見等はございませんか。

(意見なし)

限られた時間の中では出てこないところもあると思いますので、本日の議論をお持ち帰りいただいて、後ほどでもお気づきになられたところがありましたら、事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。

それでは、平成30年度第2回有田市地域公共交通会議を終了させていただきたいと思えます。本会の進行にご協力いただき、ありがとうございました。

5. 閉会